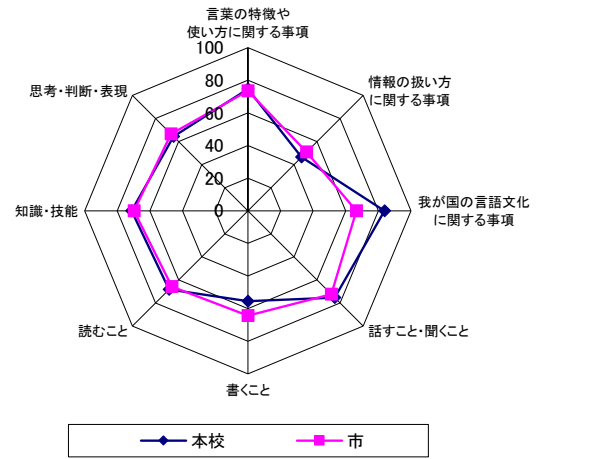


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	74.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	46.5	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	83.7	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	75.2	72.3	73.7
	書くこと	55.4	64.3	66.6
	読むこと	68.2	65.8	64.9
観点別	知識・技能	71.3	69.8	70.8
	思考・判断・表現	64.5	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

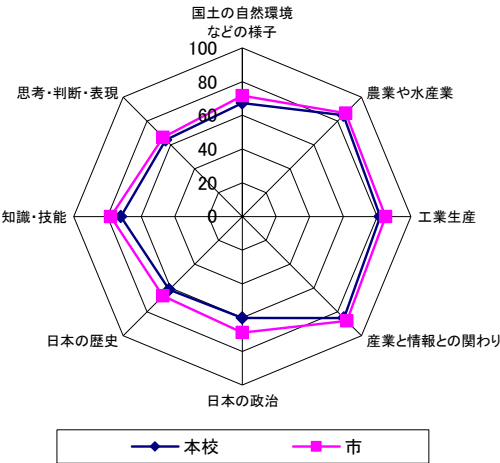
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.1ポイント上回っている。 ○第5学年に配当されている漢字を書く問題では、熟語で記述する問題の正答率が市の平均正答率よりも5ポイント以上高いものが多く、正しく書いていることが分かる。 ●敬語について正しく理解しているかどうかを問う問題では、市の平均正答率より3.6ポイント低い。	・学習の際は、ドリルや漢字練習帳等を活用して、復習できるように指導していく。 ・授業中、ノートに記述する際には、既習漢字を使用するように指導していく。また、日々の生活の中でも文章を書く際には、できるだけ漢字を使用するように家庭と連携し指導する。 ・授業中はもちろん、日常生活の中で目上の人に対して敬語を使って生活していけるよう指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、4.5ポイント下回っている。 ●無解答の児童が多く、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書いたりすることが苦手である傾向が見られた。	・国語以外の教科においても、資料を扱い、段落の構成やつながりを整理しながら、読む学習を継続していく。 ・情報をまとめることに抵抗感をもつことがないように、取り出した情報をまとめる活動を適宜行うとともに、まとめた内容が的確であったかについて交流・検討ができるよう対話的な授業を進めていく。
我が国の言語文化 に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、17.2ポイント上回っている。 ○和語、漢語、外来語を見分ける問題の正答率は83.7%であった。語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解していることが分かる。	・日常的に国語辞典や漢字辞典に親しむ学習を継続していく。 ・ドリルを活用したり、教科書でふりかえったりしながら、和語、漢語、外来語だけでなく、複合語や熟語などの我が国の言語文化に関する事項にふれる機会を多くし、語句の読みや由来に関心をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ○話し手の意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率は81.4%であり、市の平均正答率よりも4.4ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている問題の正答率は51.2%であり、市の平均正答率よりも4.8ポイント上回っている。	・今後も、国語の授業に限らず、日頃から自分の考えと比較しながら相手の話を聞く習慣を身に付けられるよう指導していく。 ・考えたことをまとめて自分の言葉で表す場を増やしていく。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると8.9ポイント下回っている。 ●ポスターの「気を付けて欲しいこと」の書き表し方の工夫を見付ける問題の正答率は58.1%で市の平均正答率よりも12.4ポイント下回った。 ●指定された長さや構成で文章を書く問題は、市の平均正答率よりも12.7ポイント下回り、無解答の児童も多かった。	・授業の中で、伝えたいことを端的に書き表すだけではなく、相手の立場で考え、他の意見をもとに説得力のある文章を書く経験を積ませる。国語で学んだことを他教科でも活かしていくことで、書く力の向上を図る。 ・問題文の題意を的確に捉えられるように、問題文の大切な部分に線を引いたり囲んだりしながら、問題文の題意を的確に捉える方法を指導していく。
読むこと	領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.4ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題で、叙述を基に文章の内容を捉えることが72.1%で、市の平均正答率よりも12.5ポイント高い。 ○物語の内容を読み取る問題でも、市の正答率と比較すると登場人物の心情や人物像を捉えることができている児童が多い。	・学校図書館の活用や読書時間の確保をし、物語文・説明文ともに読む機会を確保していく。また、読んだ本の内容を叙述を基に交流する場を設け、感覚的に捉えるだけではなく、叙述の効果にも目が向けられるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.3	71.6	69.6
	農業や水産業	84.8	86.7	83.7
	工業生産	81.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	85.2	87.7	77.4
	日本の政治	60.2	68.9	71.7
	日本の歴史	61.4	66.7	66.3
観点別	知識・技能	72.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	64.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

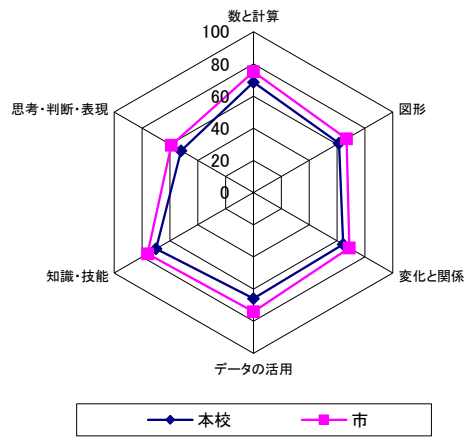
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市と比較すると4.3ポイント低い。 ○日本の周辺の海洋名について選択する問題の正答率は、81.8%と、8割以上が正答している。 ●国内の林業が抱える課題について考える問題の正答率は、34.1%と市より1.1ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の国土に関する問題は、全ての問題で市の平均を下回っているため、既習の知識を反復して学習することが必要である。また、世界や日本の国土、自然環境の問題について、輸出入などの資料と関連付けて学習できるよう指導を工夫していく。
農業や水産業	平均正答率は、市と比較すると1.9ポイント低い。 ○水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する問題の正答率は、93.2%と市より5.0ポイント高い。 ●米の生産の工程について選択する問題の正答率は、75.0%と市より6.6ポイント低い。	・米の生産工程についての知識が十分身に付いていなかったことから、社会科用語を用いて様々な資料の見方ができるよう支援する。また、資料と関連付けながら、基本的な内容の理解を図る。
工業生産	平均正答率は、市と比較すると3.2ポイント低い。 ○自動車の製造工程について選択する問題の正答率は、90.9%と市より0.4ポイント高い。 ●日本の工業の特色について、資料をもとに表現する記述式の問題の正答率は、70.5%と市より2.9ポイント低い。	・資料の読み取り方を指導し、自ら課題や疑問をもつことができるようにする。また、学んだ知識と調べたことを結び付けてまとめたり、グラフや写真等の資料を活用して発表したりして、学習の内容を多角的に捉えられるようにする。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市と比較すると2.5ポイント低い。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は79.5%と市より0.4ポイント高い。 ●さまざまなメディアの特徴について選択する問題では、9割上の児童が正答しているが、市の正答率より5.4ポイント低い。	・情報モラル教育など他教科との関連も図りながら学習への理解が深まるよう単元構成を工夫し、指導計画を立てていく。
日本の政治	平均正答率は、市と比較すると8.7ポイント低い。 ●内閣の働きについて記述する問題の正答率は、34.1%と市より8.3ポイント低い。	・内閣の仕組みやそれぞれの働きについて整理し、重要語句を正しく理解できるように支援していく。また、児童の理解が深まるよう話し合い活動を取り入れたり、重要語句を用いて説明したりするなど授業形態を工夫していく。
日本の歴史	平均正答率は、市と比較すると61.4%と、市より5.3ポイント低い。 ○源平の戦いの理解をもとに、資料を判断する問題の正答率は、59.4%と市より3.4ポイント高い。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁について表現する記述の問題の正答率は、13.6%と市より14.9ポイント低い。	・教科書の絵や写真の資料を使って、どのようなことが読み取れるのか、話し合いをしたり、その資料に関する情報を調べたりして、根拠的明確に説明できるよう話し合いの機会を多く持たせる。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.6	75.1	75.8
	図形	61.4	66.8	68.3
	変化と関係	64.4	68.8	65.0
	データの活用	65.9	74.1	63.6
観点別	知識・技能	69.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	52.0	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

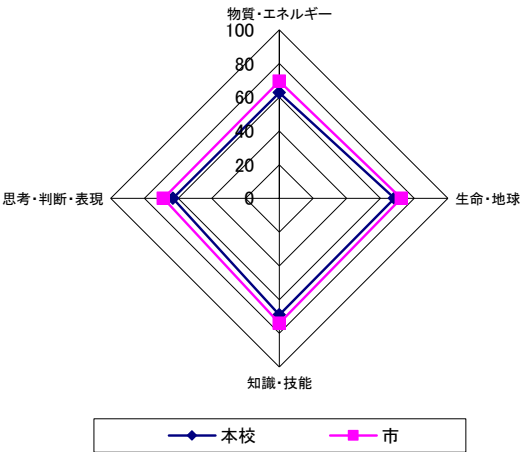
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は、68.6%であり、市よりも6.5ポイント低かった。 ○図を見て、小数倍の文章問題を解くための立式を選ぶ問題の正答率は、75.0%であり、市よりも5.3ポイント高かった。 ●文字を使って、2つの数量の関係を1つの式にする問題の正答率は、54.5%、2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、50.0%であり、市の平均よりもそれぞれ、17.7ポイント、19.9ポイント低かった。	・文章問題から、図を使って立式することは多くの児童ができています。普段の授業から立式の過程において、図を用いて指導したことや、問題を解くときに図や数直線を書くように繰り返し指導したことの成果と考えられる。今後も継続して指導していきたい。 ・文字を使って、2つの数量の関係を式にしたり、式を活用して、文字の値を求めたりすることが十分にできていなかった。今後は、今後は問題場面がとらえられない児童には、図や表をかいて立式するなど、表の読みとり方や立式について支援し、数量の関係をとらえられるように指導していきたい。
図形	領域の平均正答率は、61.4%であり、市よりも5.4ポイント低かった。 ○合同な三角形を作図する問題の正答率は、93.2%であり、市よりも4.9ポイント高かった。 ●角柱の体積を求める問題の正答率は、54.5%であり、市よりも14.6ポイント低かった。 ●円の面積を求める問題の正答率は、77.3%であり、7.5ポイント低かった。 ●点対称な図形の対称の中心から対応する2つの点までの長さについて答える問題の正答率は、59.1%であり、市よりも21.9ポイント低かった。	・合同な三角形の作図は、正答率が高く、合同な三角形を書くための条件を、ほとんどの児童は理解していたことが伺える。今後も、作図の機会を十分に設け、図形の描き方の習熟を図りたい。 ・角柱の体積や、円の面積の求め方は十分に理解できていなかった。体積や面積の求め方について再度確認し、繰り返し練習することによって、正しく求積できるように指導していきたい。 ・点対称な図形の性質について、多くの児童が理解できていないことが伺える。今後は、線対称や点対称な図形を調べるとともに、対応する点や、直線、角の大きさなどに注目し、対称の図形な性質について理解できるように指導していきたい。
変化と関係	領域の平均正答率は、64.4%であり、市よりも4.4ポイント低かった。 ○速さと道のりから、時間を求める問題の正答率は、79.5%であり、多くの児童ができていた。 ●表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるか答える問題の正答率は、63.6%であり、市よりも9.8ポイント低かった。 ●割合を求める問題の正答率は、50%であり、半数の児童が正答することができなかった。	・面積あたりの人数など、単位量当たりの大きさを比べることができていなかった。今後は基準量と比較量をもとに、指数を求めることの意義について確認したり、混み具合や人口密度などの単位量当たりの大きさについて比べたりする活動を多く取り入れ、習熟を図りたい。 ・全体の量をもとにして、割合を求めることも十分にできていなかった。割合の意味や求め方について再度確認するとともに、身近な事象の割合を求める活動を取り入れていきたい。また、他教科において、円グラフや帯グラフの読み取りや作成を十分にを行い、割合を身近に感じられるように指導していきたい。
データの活用	領域の平均正答率は、65.9%であり、市よりも8.2ポイント低かった。 ○答えが小数になる分離量の平均を求める問題の正答率は、81.8%であり、多くの児童ができていた。 ●最頻値を求める問題と、度数分布表を埋める問題の正答率は、70.5%と75.0%であり、市よりもそれぞれ、10.1ポイント、10.9ポイント低かった。 ●4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める問題の正答率は、27.3%であり、市よりも14.3ポイント低かった。	・最頻値や度数分布の理解が十分でなかった。平均値や中央値、最頻値の意味を再確認するとともに、データの見方の問題練習や、データ分析の機会を増やし、代表値の求め方についての理解を図っていききたい。 ・平均を活用して、およその道のりを求めたり、その方法を説明したりすることができなかった。今後は、廊下などの長さを自分の歩数と平均歩幅をもとに求めるなど体験的に取り入れ、平均を身近に感じられるようにしていきたい。また、授業では手順を説明するのではなく求め方を一緒に考えながら、単位量当たりの大きさを求める意味をとらえられるようにしていく。 ・立てた式や考えを順序立てて、説明することができていないため、授業の中で考えを伝え合う機会を意図的に設定したい。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.7	69.5	65.2
	生命・地球	68.3	72.3	70.1
観点別	知識・技能	69.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	63.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域の平均正答率は、62.7%であり、市よりも6.8ポイント低かった。 ○4(3)乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くするために、直列つなぎにする問題では、市の平均より6.0ポイント上回った。体験的な学習によって理解が定着していることが考えられる。 ●2(3)ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、同じ周期になるふりこを指摘する問題では、市の平均より18.7ポイント下回った。必要な条件や語句を使って事象を説明することに対する理解が不十分であるといえる。 ●3(3)水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法を指摘する問題では、市の平均より22.4ポイント下回った。事象に対する理解はできていても、問いに対する答え方として、類似の項目から違いを見つけて取捨選択することができていなかったと考えられる。	・今後も実験セット等を使った体験学習を取り入れ意欲の向上を図っていくようにする。 ・実験結果を振り返り、再確認することで事象の理解を深めていくように指導する。 ・問いに対しての答え方のスキルについて授業の中で伝える必要がある。 ・一つの事象や現象に対して用語を使った説明の仕方を授業の中で繰り返し設定し、指導していく。
生命・地球	領域の平均正答率は、68.3%であり、市よりも4ポイント低かった。 ○1(2)流れる水のはたらきについて、仮説が正しいといえるための結果を推測する問題では、市の平均より5.4ポイント上回った。実際の水の流れを目にする実験を行い、体験的な学習によって理解が定着していることが考えられる。 ○7(3)ダイコンを保存するために、茎や葉を切る理由を説明する問題では、市の平均より5.1ポイント上回った。日常生活での体験が理解に繋がっていると考えられる。 ●1(1)浸食についてきかれた問題では、市の平均より13.9ポイント下回った。現象は覚えていても、その現象を言い表す用語は覚えていないことが考えられる。 ●6(3)かん臓のはたらきについてきかれた問題では市の平均より16.0ポイント下回った。それぞれの臓器とそのはたらきが関連付いていないことが伺える。 ●月と太陽の問題3つ全てにおいて市の平均より10ポイント以上下回る結果となった。問題を理科的な視点を用いて考えることで自然現象と生活を結びつけることができていないことが考えられる。	・今後も体験学習を取り入れ、意欲の向上と知識の定着を図っていくようにする。 ・一つの事象や現象に対して用語を使った説明の仕方を授業の中で繰り返し設定し、指導していく必要がある。 ・教科書やICTだけでなく三球儀などの器具を使って実際に見ることができない事象も繰り返し復習し、より深く理解できるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が言葉の力を伸ばす工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。 授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、自分の考えを言語化する場の設定をする。 また、話合いの話型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話合いを進められるようにする。	「学校の授業がどの程度分かります」に対する肯定的割合は、質問項目のある4学年全て90%以上であり、そのうち、3つの学年で市の平均を上回っていた。また、「学習をしていて、おもしろい、楽しいと思ったことがある」に対する肯定的割合は、全学年で市の平均を上回っており、5つの学年が90%以上の割合であり、課題解決に前向きに取り組めていることが伺える。 話合い活動の中で、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる」に対する肯定的割合は質問項目のある4学年のうち、3つの学年で市の平均より7ポイント以上高く、対話的で深い学びに向けた取り組みの効果が上がってきていると考えられる。
児童が自信をもって伝え合うための工夫	自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。 また、課題解決に見通しをもって取り組み、課題をどのように学んだのか、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い、定着を図る。	「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」に対する肯定的割合は、質問項目がある4学年のうち、3学年で市の平均を上回っている。また、「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」に対する肯定的割合は、質問項目のある4学年全て市の平均を大きく上回り、高学年において約9割の児童ができるようになったことを自覚している。 「学習をしていて、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることは嬉しい」の質問項目の肯定的割合は、学年93%以上であった。6学年のうち4学年で市の平均を上回り、今年度重点的に取り組んできた自分の学びを確認し、成長への気付きを促す振り返りの取り組み振りの効果が上がってきていると考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市における教科に関する調査から、「複数の情報を関連付けて書くこと」や「各種基礎資料を通して情報を適切に調べまとめる技能」、題意を的確に読み取り見通しをもって解き進めることへの課題が見られた。

どの教科においても、図書資料や辞典、ICTを活用して調べたり、言葉の意味を理解しながら読む活動を取り入れたりして、語彙を増やす。複数の資料から必要な情報を比較・検討したり、関連付けて考えたりする活動の充実をさせ、読解力の伸長を図る。また、教科における重要語句や指定された文字数・構成の条件に即した書く活動などを通して、筋道を立てて考えを説明するなど、表現力の伸長を図る。

「授業への取り組み」や「学習に対する気持ちや態度」についての肯定的割合が市の平均と比べて高い項目が多い。各教科において課題設定を工夫し学習に対する意欲を高めながら、ICTの積極的な活用を図り、分かる授業の展開に努める。また、今後も学習活動における学び合いを重視し、教師が児童の思考過程や根拠を導き出し、論理的な話合いをする機会を多く設け、児童同士がお互いの意見の意図を理解できるような言語活動を取り入れ、学力の向上を図る。